

テレビ局 CSR の根幹【放送の維持】OHK報道部による災害報道訓練

OHK岡山放送では岡山県・香川県のエリアの皆様には有益な生活情報をお届けするだけでなく、報道機関としての役割を持って日夜放送を行っています。

今回は、大規模地震の発生に備え、エリアの視聴者の皆様に正確でわかりやすい地震情報を届けるために行う報道部の緊急災害報道の訓練の一部をご紹介します。



地震発生を想定してミルンスタジオで災害放送の訓練を行う様子

先月30日にミルンスタジオで行われた訓練では、夜間に入ろうとする午後6時55分頃、高知県沖で「南海トラフ地震」が発生し岡山市や倉敷市などで震度5弱を観測、大津波警報が発令されたとの想定で行いました。通常番組編成の時間帯に緊急ローカルニュースを送出するという事で、報道部員がそれぞれ担当に分かれ、ミルンスタジオ内や各地のお天気カメラがとらえた「地震発生直後の映像」の撮影確認の他、放送で使用するお天気カメラ映像への切り替え、正確なスーパー表示作業などを行いました。



報道デスクは災害発生後に送出する内容をキャスターへ伝える

一方で、視聴者の皆様が真っ先に注目するのは報道キャスターによる地震の第一報。この日は夕方のニュース本番を終えた渡邊アナ・森アナの2人が訓練に参加し、地震発生後にOHKのスタジオに放送画面が切り替わった後の本番を想定して放送する訓練を行いました。

訓練後は、震度や津波等の情報を知らせるスーパーが見やすく表示できているか、また放送中に緊急地震速報が発出されることも想定されるため、その時に部員それ

ぞれが取るべき行動について共通認識が取れるかどうかの確認を行いました。

今回の訓練で生じた反省点を改善し、訓練の回数を重ねながら万が一の事態に備えていくことにしています。

